

～ All for one, One for all. ～

光 の 家

LIGHT HOUSE WITH THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設

東京光の家会報

— 165 号 —

2011 年 11 月 15 日発行

このように、いつまでも
存続するものは、信仰と希
望と愛と、この三つである。
このうちで最も大いなるも
のは、愛である。

コリント人への第一の手紙

第一三章 一三節

巻頭言

今、福祉施設には何が起こっているか （障害を持つ人々と福祉施設）

社会福祉法人東京光の家 理事長 田中亮治



2011 愛のサウンドフェスティバル (オリンパスホール八王子)

障害を有する人々が、すべて福祉施設の対象になる訳ではありません。現実には、障害という重荷を負いながらも頭の下がるような自立の道を歩み、見事な社会貢献をされている方々が沢山存在しています。

(1)

ここで論じようとしているのは、障害が重度又は複合障害等の故に、自立の道の困難な方々についてであります。現実の福祉施設は当にこのような障害を背負う人々のために存在していることを、まず最初に申し上げさせていただきます。

当法人には、機能的に又は、法律的に相異なる次の四つの福祉施設が設置・経営されています。

①光の家新生園

(光の家生活訓練ホーム併設：障害者支援施設・訓練型・障害者自立支援法に基づく)

②光の家栄光園

(障害者支援施設・就労型・障害者自立支援法に基づく)

③光の家神愛園

(生活保護法による救護施設)

④光の家鍼灸マッサージホーム
(盲人ホーム・通所)

◎その他の建物として「地域交流センター(地域の人達との交流及びボランティア活動の拠点として、一階ポランティアルーム・研修室、二階ゲストルーム:宿泊施設・家事訓練室、三階音楽室」以上のとおりです。

(2)

これらの施設を利用している大方は、視覚障害を持ち、その上に他の障害をも併せ持つ方々です。一〇代から八〇代・九〇代に至り、その障害程度も様々です。その対応の仕方も個々皆違い、専門性と個別支援計画の必要な^{おんせん}所以がこの辺にあると言えます。総勢約二三〇名余、入

所が約二〇〇名、通所が約三〇名です。でも、みんな一生懸命に自立を目指して諸訓練に励んでおります。様々な重荷を背負いながらも、それに負けず乗り越え、それぞれの人生をまっとうしようとする汗を流し、涙を流しているのです。

福祉施設に対する施策の現在の基本的流れは「障害の重い者は施設入所を、軽い者は在宅又は地域生活を」となっています。そのため障害程度区分(六・五・四・三・二)を設定し、四以上と認定された者は施設入所が出来る仕組みとなっています。

要するに、障害者のための福祉施設は、障害の重い者をしつかりと受けとめ、これらの方々に対して質の高いサービスを提供し、専門性の濃い対応をせよ、という理念であります。

私は、このような理念の流れに決して異を唱えるものではありませんし、福祉施設の社会的

責任と役割としてこの流れをきちんと受けとめ、最善の努力をするものでもあります。

但し、障害の軽重をあらわすこの「程度区分」の決定には、きめのこまかい配慮と愛情をもとにした措置が絶対に欠かせないという事です。さもないと、この程度区分決定一つで、無理矢理に施設退所を強いられるという悲劇が発生しかねません。

これでは、本人も家族の方々も苦しみます。だから、単にお金の問題でこの程度区分を論じ、決めてはならないのであります。

こんなケースがありました。

このケースを担当する福祉事務所から、突然「〇〇月から程度区分(4)を(3)にします」という連絡があったのです。施設にとつては何が何だか全く訳がわからず「不服の旨」を申し、結局元に戻されましたが、こんな事は二度と起きないようお願いいたします。

会報 五言

一、日本は五年で六人の総理が誕生したと言う。政治にズブの素人でも、これで外交や防衛政策がまともになるのか疑問に思う。

一、東北大地震は国の非常事態だと言う。

このような事態に一国の総理たる者、どのような毅然としたメッセージを国民に提示するかが問われるのではあるまいか。

一、聖書は言う、受くるよりは与うるが偉いなりと。

一、間もなく寒い季節がやってくる。でも、厳寒を経てはじめて温風の有難さを知る事ができる。

一、艱難の裏には恩恵の芽がひそむ。これが人生の妙なるところなり。

正秋バンドと共に二〇数年を振り返る

光の家愛のサウンド後援会会長 沢田 研二



私が初めて「正秋バンド」

と出会ったのは平成二年（一九九〇年）一二月、日野市民会館大ホールでした。改めて思い返すと二〇年以上も前であり感慨無量の思いがあります。

東京光の家とは、私の元勤務先のすぐ近くという事で以前からなじみの深い、かつ会社と近隣の福祉施設との関係で様々な交流もありましたが、その中の正秋バンドの事の認識はなく、市民ホールのコンサートが初めての出会いでした。当時私は日野市議会議員に

なり、一年にも満たない言わば新人の身でしたが、大先輩議員の（故）小山良悟さん（初代後援会長）から正秋バンドコンサートを紹介され、初めて参加しました。

’90・愛のサウンドフェスティバル「映画と音楽のつどい」。

映画はドキュメンタリー映画「まさあきの詩・盲重複障害者の自立への挑戦」がタイトル。

歌は正秋君を中心に津軽平野・まつり・とんぼ・チャンピオン等々幅広いジャンルで、正秋君の弾き語りとバックコーラスが入った、歌も演奏もすばらしいものでした。

自立に向け頑張っている利用者皆さんの姿を映像で拝見し、その後の正秋バンド六人（高橋正秋・小園江利恵・神崎健児・千葉利彦・西沢清和・渡辺賢史

各氏）のすばらしい演奏を拝聴し途中から涙が止まらなくなつた事を、二〇年以上経過した今も鮮明に記憶しています。

メンバーの皆さんは、何れも視覚障害とその他の障害を重複して背負い生活している訳で、音楽に係わるという事は、音符も歌詞も全て耳から覚える事であり、大変な努力をし、それを立派に成し遂げている姿にふれ自分の努力不足を痛感しつつ正秋バンドメンバーのすばらしさ

頑張りに涙が止りませんでした。小山さんからは「光の家愛のサウンド後援会」を作りたいのと言われているのでコンサート終了後、即刻後援会に参加する事を伝えました。

その後小山後援会長のもとで平成一〇年には「結成一〇周年記念コンサート」を行い、また平成二〇年に「二〇周年コンサート（歩）あゆみ」が二代目小西慶亮後援会長のもとで盛会に開

催され今日に至っています。

平成二二年度より、私沢田研二が三代目の後援会長を務めさせて頂いています。正秋バンドメンバーの頑張りや東京光の家の絶大なる支援は元よりですが、なんと言っても基軸は後援会皆様様の長年に渡ってのご支援があったればこそ今日まで継続した活動が行なわれている訳であり、心から感謝しお礼を申し上げます。

二三年目の今年度は「東日本復興支援チャリティーコンサート」でした。後援会では、毎年、毎回チャリティーを主体に置いてのコンサートを引っ掛けており、毎回収益の一部を様々な団体等に贈っています。

今後も正秋バンドを通じ後援会員皆様初め一人でも多くの方々に感動と、加えてより一層社会支援活動を行っていく為に、また正秋バンドを応援し続ける為に一人でも多くの方々が後援会に加入頂ければ幸いです。

各施設のトピックス
 指定障害者支援施設 光の家新生園
 青空のもよび

去る九月二二日（木）、光の家新生園『運動会』が行われました。前日の台風一五号の影響により室内での開催が検討されました。「空の下で運動会を」という利用者の願いから、当初予定していた旭が丘中央公園ではなく、オリンピック広場（法人内広場）へ会場を移して開催されました。会場は幾分狭くなりましたが、会場を替えたことで生れた新種目があります。利用者・職員混合リレーです。このリレーは、トラックを走る一般的なリレーとは違い、一本にピンと張られた三〇メートルほどのロープを伝って走ります。バトンはロープに通したリングです。利用者はこの方法での徒競走を毎年行っていますが、問題は職員です。アイマスクを着用しての走りは未経験です。恐怖



全員で八木節を披露！

心からくる腰の引けた走りのたどたどしさに、来賓席から笑いが起こり、利用者からの楳が飛びます。その他にも保護者と行った二人三脚の嬉しそうな表情、デモンストレーション『八木節』をやり遂げた充実感、応援合戦や綱引きの熱気、真剣な表情。空の下での運動会は、利用者一人ひとりの活き活きとした表情を見ることができました。

（訓練課 廣瀬 武生）

指定障害者支援施設 光の家栄光園
 新しい年を「エコ」な気持ちで迎えませんか？

今年も光の家栄光園では、牛乳パックの紙漉きによるカレンダーを製作しました。この紙漉きのカレンダーは、栄光園に紙漉きの機械類が入る前の平成一九年度より製作しています。現在は機械類が入り、品質の向上と大量生産が可能になり、主力製品となりました。イラストのテーマは毎年変え製作しています。



来年のカレンダーが出来ました！！

今年も光の家栄光園では、牛乳パックの紙漉きによるカレンダーを製作しました。この紙漉きのカレンダーは、栄光園に紙漉きの機械類が入る前の平成一九年度より製作しています。現在は機械類が入り、品質の向上と大量生産が可能になり、主力製品となりました。イラストのテーマは毎年変え製作しています。

（就労支援課 浅井 紗和）

「A4サイズは、「ネコ」をテーマ

救護施設 光の家神愛園

みんなの音楽会 ～日々の練習の成果を～

一〇月二四日に東京都内にある老人ホームや障害者施設、二三団体が参加する「みんなの音楽会」が浴風会大ホールにて行われ、ゲストには『東京アンナ』『ここに幸あり』などの代表

曲で知られる大津美子さんがいらっしやいました。その中で「神愛園ライト&ミュージック」は、皆で意見を出し合い季節に合った『汽車』と『紅葉』を披露しました。得意な楽器を演奏するメンバーの他に、初めてボーカルに挑戦するメンバーもいて緊張した面持ちでしたが、いざ本番となるとみんな堂々とし、演奏を楽しんでいました。

私は四月から音楽サークルの担当となり、初めて音楽サークルに参加した時は、演奏の完成度の高さにとっても驚きました。音楽サークルの目標である

「仲間と音を作り上げる」という共同作業の中で楽しさと達成感を味わう事が出来たと思います。

これからも日々の活動において、みんなで演奏する楽しみを感じられるような支援をしていきたいと思っています。

(支援課 富樫 麻也)



日々の成果を発表!

総務課

皆で取り組む「節電対策」

去る三月一日に発生した東日本大震災により電力関係では未曾有の原発事故が起こり、そのために電力不足が発生し計画停電等初めて経験する事になりました。

東京光の家でも各施設が節電計画を立て、それを施設全体の目標と合わせてチェックリストの作成からその実行の徹底と職員全員で努力を続けてまいりました。もっとも気を使ったのは夏場の省エネでした。電気、パソコン等の省電力に努め、部屋の冷房も二八℃と高く暑さを乗り切るのは大変でした。又、照明を間引きしたり、ゴーヤを植えたグリーンカーテンなど目を細めるものもありました。

このような方法で東京光の家でも積極的に節電に取り組み、一五%の削減目標に対して八月

は約二〇%、四月からの累計でも一二%を超える節電を達成することができました。これ十分とは言えませんが、これまで以上に一人ひとりが真剣に節電を心がけ、実行していくことが大切と感じました。寒さに向かうこれからも皆で協力し、節電に努めていきたいと思っています。

(総務課 藤本 小夜子)

電気料金推移表 (単位:円)

	22年度	23年度	前年度比
4月	1,031,787	907,650	△ 124,137
5月	810,730	770,717	△ 40,013
6月	807,841	800,178	△ 7,663
7月	1,089,414	1,004,973	△ 84,441
8月	1,284,765	1,022,329	△ 262,436
9月	1,234,536	983,466	△ 251,070
合計	6,259,073	5,489,313	△ 769,760

リティーコンサート サウンドフェスティバル

が あ る 限 り

2011.9.3 Sat.

OLYMPUS HALL HACHIOJI

オリンパスホール八王子 (新八王子市民会館)



「美施の報告」

去る九月三日(土)の午後
動きの非常に遅い台風一二号が
各地に豪雨の被害をもたらした
が、徐々に関東へと接近し天

第二部は、ゲストに夕照会を
迎え、正秋さんが大好きな民謡
や演歌をはじめ、音楽を愛する
気持ちを含めました。

候の急変が心配される中、今年
四月に落成したばかりの真新し
い会場「オリンパスホール八王

親である天国のノゾミ先生に届
くように「千の風になって」を
心をこめて歌いました。

子」で、今年も恒例の「愛のサ
ウンドフェスティバル」が、台
風の勢力に負けぬ活気を伴って
幕を開けました。

「愛のサウンドフェスティバ
ル」は、毎年々々沢山の心温ま
るご支援で成り立っております
。福祉協力券をご購入下さり

今回の演奏会に向けて、正秋
バンドは今出来る事をしよう、
という強い思いがありました。

応援にご来場頂く大勢の方々、
後援名義の使用をご許可下さる
自治体等団体様、パンプレット

今回のタイトル「われらに音楽
がある限り」とある通り、二三
年を経た正秋バンドが、音楽が
ある限り演奏を続けたいとい
う強い思いからです。しかし、三

て頂く企業様、司会やゲスト出
演でコンサートを一層盛り上げ
て華を添えて下さる方々、日頃
より正秋バンドの演奏活動を温

月一日の震災以降、その音楽
は、被災者のために何か出来る
事をしたいという思いに変わり

かく支えて下さる光の家愛のサ
ウンド後援会の方々等、大変多
くの皆様方からの大きく強いお

東日本復興支援チャ

正秋バンド 愛のサウ

われらに音楽



ました。

バンドメンバーにも岩手県出身者が二名存在し、その内、大船渡市出身メンバーの実家は津波による大きな被害を受け、幸いご家族は避難し事なきを得ましたが、建て替えを終えたばかりの住宅が全く使えない状態になってしまいました。

ご本人も被災者でありながら、いや、被災者であるからこそ、被災地への支援をさせて頂く事の意義やそれらに向けて頑張る事の大切さを身に沁みて感じ、他のメンバーや役員等周囲もその決意に同調して、例年以上に大きな思い入れを込めてコンサート当日を迎えられたものと思います。

第一部は、皆と一緒に、復興を願う気持ちで歌を通して伝わるよう思いを込めて歌いました。

力添えに改めまして深く感謝を申し上げます。

なお、九月二八日に日本赤十字社を通じて東日本大震災の義援金として、収益の一部を寄付させて頂きました事を併せましてご報告申し上げます。

正秋バンドメンバーは、既に来年の「愛のサウンドフェスティバル」開催に向けての練習を開始しております。

来年のコンサートに於きましても、引き続き皆様からの熱いご声援をお寄せ下さいますようお願い申し上げますが本年の実施単ではございますが本年の実施ご報告とさせていただきます。

Program

津軽平野

今を生きて

素敵な仲間われらナイン
(オリジナル曲)

どんな花でも生きている
(オリジナル曲) 他

夕照会 三味線ばやし 他

墓参に想う



毎年お盆の頃に、光の家では三施設の利用者と職員で墓参を行っています。そこでは讚美歌を賛美し、聖書を朗読し田中理事長の講話が行われます。ただ、今年の墓参は例年とは違った雰囲気にも包まれていました。それは、去る五月一日に天に召された田中ノゾミ名誉顧問の納骨式が執り行われたからでした。ノゾミ先生は生涯を通して光の家のため、そして私たち利用者一人ひとりの為に本当に親身になって接してくれた人でした。やはり皆がノゾミ先生にお別れの挨拶をしたいという気持ちが強かったからだと思います。

墓参の最後に光の家で生活をしてきた仲間で納骨されている利用者の名前が発表になりました。大勢の方が亡くなられたんだなと思います。ただ、光の家で生活をした仲間は天に召さ

れた後も皆で仲良くお茶を飲んだり、談笑したりしていることと思います。私も現在、何不由ない生活をさせていたたいていますが、いつの日かその仲間たちと出会うことを誓い、今回の墓参に加わり花を手向けさせていただきますました。そのようなことを考えていますと、別れの寂しさも薄らいでいました。今後もこの行事を大切にし、ずっと続けて頂きたいと思えます。(光の家神愛園)

利用者 小野 茂



田中ノゾミ名誉顧問の納骨式

第34回チャリティーバザー 沢山の恵みに感謝

去る一〇月一〇日(月)の体育の日、清々しい青空に恵まれた中で、三四回目を迎えたチャリティーバザーを行う事ができました。当日の会場は、沢山の地域の方々がお来場され、ボランティア、保護者の皆さんのご協力も頂き、賑やかな一日でした。売上は目標額の四〇〇万円を突破。「提供品」から、当日開催への「様々なご協力」、そして「ご購入」と、沢山の皆さんに支えられ、恵みを頂けたお蔭だと「感謝」致しております。本当に有難うございました。

今年のバザーは、三月一日に発生した東日本大震災の関係で、計画段階から売上金の一部を義援金に充てる事を目的に加えて取り組みました。しかし、震災の影響で提供品が例年に無く少ない状況が続く、広報活動や関係者の皆さまへ、お願いす

る日々が続きました。その結果開催当日間際には沢山の情報や提供品が寄せられ、無事開催に至りました。地域の方々や幅広い協力者、そして関係者全体が、交流だけでなく協力し合って取り組めた行事でもあったと感謝しています。お陰様で「日本赤十字社」を通じ、東北地方へ若干の義援金を送る事も出来ました。長年継続し、地域に根差した行事を、今後も大切にしていきたいと思っております。(バザー委員長 中河原 達也)



大盛況のバザー

光の家
オープンハウス!

見えない人のくらし 〜働く・学ぶ・楽しむ〜

「なつやすみのひととき、見えない人のくらしを、ちよつとのぞいてみませんか? 実はあんまり知らない、見えない人のくらし。その答えが分かる、光の家の新しいイベントです。」

右は広告用のポスターに書いたキャッチコピーの抜粋です。

八月一九日・二〇日の二日間、地域の方々に視覚障害について理解を深めていただくためのオープンハウスが開催されました。

体育室に写真展示やサウンドテーブルテニス(利用者と対戦!)、点字体験、弱視体験等のコーナーを設け、視覚障害を目で見て、体で感じられる初めてのイベントでした。

ドキドキしながら迎えた初日



触れて体験!

は、なんと雷雨でのスタート! しかし二日目には雨は上がり、地域の方も五〇名程いらしてくださいました。初めての体験に、あちこちから「へえー!」という声が漏れてきて、内心ガッツポーズ! 利用者のくらしをのぞいていただけただようでした。オープンハウスに來場された地域の皆様に感謝します。(地域貢献活動室 大塚 清香)

第11回

全国障害者スポーツ大会

「おいでませ! 山口大会」

去る平成二三年一〇月二〇日から二五日まで、東日本大震災復興支援、「君の一生けんめいに会いたい」をテーマとして、第一回全国障害者スポーツ大会「おいでませ! 山口大会」が行われました。この大会に、サウンドテーブルテニス(STT)の東京都代表選手として、新生園の高橋繁さんが選ばれました。今大会の参加で、光の家から全国大会に出場したのは、二〇〇六年の第六回兵庫大会から、六年連続の参加になりました。

二試合がありました。フルセットの末、三対二で敗れてしまいましたが、二位に入賞しました。このような経験を積むことにより、大会テーマの通り、繁さんの一生懸命な姿には、心が熱くなり大きな感動を受けました。これからも多くの方々に感動を与えられるような支援をして行きたいと思えます。

(光の家新生園 訓練課

主任 阿部 哲也)

一〇月二二日(土)には、開会式に参加、午後からサウンドテーブルテニスの第一試合が行われました。対戦相手は、今まで勝てなかった山形の選手との対戦となりましたが、セットカウント三対一で初勝利を納めました。翌、二三日(日)には第



全国大会準優勝!

「自衛消防能力活動の向上を目指して」

災害時相互応援協定と自衛消防訓練審査会

九月七日、日野消防署、地元三自治会との合同防災訓練を実施しました。この訓練は四時間以内に大地震が発生するとの想定で警戒宣言が発令され、四〇

分後に地震発生、その後火災が発生し全員、旭が丘東公園に避難するというものでした。地元自治会の皆様には、利用者の避難誘導をお手伝いしていただき

ました。平成一七年から年二回同様の訓練を実施しているため、建物配置や手順、視覚障害の人に対する介添え歩行等についてかなり理解していただいているので大変心強く感じています。また、九月一六日には、日野消防署による自衛消防訓練審査会が行われました。今年度は、屋内消火栓男子隊Bグループに参加して、見事三位に入賞しました。指揮者が野間職員（栄光

園）、一番員が功刀職員（神愛園）、二番員が福田職員（新生園）でした。七月から互いの勤務を調整して早朝練習をする等努力の結果だと思えます。

東日本大震災後、自衛消防活動能力の向上が課題になっています。こうした努力をこれからも続けていきたいと思えます。（防災委員会

委員長 平野 吾二）

光の家には七月八日から八月一九日まで、台湾出身の黄湘容さんが来園されました。研修は地域交流センターのゲストルームに宿泊しながら行われます。神愛園、栄光園、新生園の三施設で日課や行事に参加して頂きますが、利用者・職員とのコミュニケーションはすべて日本語。三月に来日して数か月ですが、その上達の早さに皆感心してまいります。研修の最後に



自衛消防訓練審査会（三位）

慣れない土地での研修は苦勞も多いことと思いますが、日本の研修が実り多きものとなり、国際交流と相互理解の輪がより一層広がるよう願っています。（総務課 岩崎 幸二）



夏祭りで踊る黄さんと利用者

アジア社会福祉従事者研修

国際交流の輪広がる



東京光の家 海外研修

スウェーデンとフランスへの研修



今回、福利厚生センター「ソウエルクラブ」が開催している海外研修に参加させていただきました。他国の社会福祉制度や施設の取り組みを学び、視察し社会福祉の知識を深める事を目的としてスウェーデンとフランスの施設を勉強させていただきました。

スウェーデンでは障害者の受け入れ態勢がしっかりしており、ボランティアも多く参加し障害者を受け入れていました。スウェーデンの町を見学し歴史ある建造物などを見て感じたことは、バリアフリーがあまり進んで

いないことです。段差が多く石畳の道路や建物の入り口が狭い箇所が多く見られました。ガイドの方からはバリアフリーにする事によって、町の景観が損なわれるのは良くないと感じている障害者の方も多くいるそうです。

フランスの施設では知的障害

者の支援施設に訪問しました。こちらでは研究部門があり芸術に優れている方などが作品を作っていました。どの作品を見ても、町で売っている物と変わらない作品ばかりで「本当に障害のある方の作品？」と私自身驚きでした。利用者の方の部屋を見せていただきましたが、とてもきれいに整理整頓され、オブジェなども自分でつくり飾っていました。職員の方に聞くと自分の部屋は自分の好きなようにしているそうです。この施設からはフランスでは大変有名な画



フランスのクレイガブリエル職業センター

家も輩出しているそうです。作業環境も時間を忘れそうな位の開放感、作業に打ち込める静けさ、驚きの連続でした。さすが芸術の都と呼ばれるだけあり、生活の中に文化芸術が根付いていることを実感しました。

今回のこのような機会をいただき異文化に大変刺激を受けました。また新たな気持ちを持って仕事に取り組む事が出来ると思います。今後いろいろな勉強をし、利用者の為に出来ることをしていきたいと思えます。

(食事課 岩間 雅登)

寄付者名簿

平成 三年七月一日
〜 一〇月二五日

公益財団法人 森村豊明会様

綾木潔様

金一、〇〇〇、〇〇〇円
西瓜 一二玉

坂本武様

梨 一〇〇個
じゃがいも 二、五kg

佐藤農園

佐藤栄一様

ホウレン草 5kg

土屋正和様

メロン 一玉

遠藤春夫様

かぼちゃ 一〇kg
ぶどう 二kg

宮田俊晴様

米 六玉
メロン 三〇kg

一般社団法人 日本レコード協会様

一般社団法人

CD 一七枚
メロン 一〇玉

杉田功様

梨 一三三個
メロン 一七枚

渡辺明弘様

小太鼓 一張

大河内忠夫様

じゃがいも 一〇kg

浅石常勝様

メロン 二玉

高木啓一様

どんこ 二kg

山下嘉康様

桃 三三六個

荒田貴江様

葉書 七〇枚

井川幸雄様

梨 四八個

田島住子様

巨峰 五〇kg

高見元晴様

カセットデッキ 一台
じゃがいも 六〇kg

かぼちゃ 一〇kg

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。



エッフェル塔を背に記念撮影



一〇月一九日、東京光の家
地域交流センター研修室にお
いて、マツサージホームの山
田実さんと三浦由紀子さんの
結婚式が執り行われました。
ご両家ご家族ご友人、施設職



員と利用者の方のご出席、ご
祝福を頂くなか、田中亮治理
事長の司式により、厳かな内
にも心温まる結婚式を挙げて
頂きました。
ホーム利用者同士の結婚は
開所以来の事です。結婚後も
新居より二人で通いながら仕
事を続けて参ります。今まで
以上に仕事に、また盲人ホー
ムの士気を高めるべく励んで
参ります。今後ともどうぞよ
ろしくお願いいたします。
(光の家鍼灸マツサージホーム
佐藤 いく子)

同行援護従業者養成研修 受講生募集 (東京都指定研修)

～視覚障害者との歩き方・援助の仕方を学びませんか～

【研修期間】平成24年1月20日(金)～2月5日(日)

通信期間：平成24年1月20日(金)～2月5日(日)

通学期間：平成24年2月4日(土)、5日(日)の2日間

【場所】東京光の家 地域交流センター 研修室他

【費用】17,000円 【定員】20名 ※定員になり次第メチ

【研修修了者】同行援護従業者の認定資格を取得

【問合せ】東京光の家 TEL：042-581-2340



～あとがき～

今月発行しました光の家会報
一六五号では、九月に行われま
した正秋バンドの愛のサウンド
フェスティバルについて大きく
取り上げました。後援会の沢田
会長の「正秋バンドと共に二〇
数年を振り返る」をはじめ当日
の八王子オリンピックホールでの
様子を写真とともにお伝えして
おります。今回は、東日本復興
支援チャリティーコンサートと
して大変多くの皆様にお越し頂
きました。

また、八月の募参では田中ノ
ゾミ名誉顧問の納骨式も執り行
われました。そして一〇月の体
育の日には恒例の光の家チャリ
ティーバザーが好天の中、行わ
れました。今年も残りわずかと
なって来ましたが光の家の共通
行事もあと一二月のクリスマス
を残すのみになりました。
どうぞお体には十分お気をつ
け下さい。

(編集委員長 石渡 健太郎)

発

行 千一九一〇〇六五
東京都日野市旭が丘一七七一
社会福祉法人 東京光の家
電 話 〇四二(五八)二三四〇
F A X 〇四二(五八)九五六八